

令和元年度 第1回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の結果について

令和元年7月24日（水）に開催しました、公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和元年7月24日（水） 10時10分から11時40分
- 2 開催場所 佐賀市立図書館 大集会室
- 3 出席者
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会：6名
委員長：高島忠平
委員：石丸義弘、徳永浩、富吉賢太郎、福成有美、峰悦男
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団：5名
 - ・事務局：4名
- 4 議 題 平成30年度 実績評価について
 - (1) 自己評価
 - (2) 質疑応答
 - (3) 採点
 - (4) 集計
 - (5) 総合評価・意見交換
- 5 会議の公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0名
- 7 議事録（概要）

(1) 自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 平成30年度実績

◎判定の基準
 【A】高い成果を収めている 【B】概ね良好な成果を収めている 【C】向上の余地がある。【D】見直しが必要である 【E】抜本的な見直しが必要である

| 評価項目 | 評価資料Ⅱ | 自己評価 | コメント(評価の理由等) |
|--|--------------|---|---|
| 1) 施設管理に関すること | | | |
| ① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。 | P18,19,25～28 | B | 適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。 |
| ② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。 | P1～6 | | 上半期に続き、文化会館の利用者数及び東与賀文化ホールの利用者数・稼働率は、目標値を達成できたが、文化会館の稼働率は達成できなかった。昨年度後半、美術館ホール・アバンセ・メートプラザが工事のため休館していた分、文化会館を利用していた団体が元に戻ったこと、これまで利用のあった団体が練習の人数が集まらないため利用がなくなったためと考えられる。 |
| ③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通じ、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。 | P22 | | ホームページ、フェイスブック、広報誌「新風」、MOTEMOTEさが、テレビ、ラジオ、新聞記事・広告により広報活動に努めた。 |
| 2) 文化事業に関すること | | | |
| ④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。 | P7～14 | A | 文化会館・東与賀は、企画・事業実施時期を計画的に実施し、広報媒体への露出も積極的に行った結果、入場者数・事業数ともに目標値を上回った。 |
| ⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。 | P7～14 | | 文化会館は、社会包摂事業として老健施設4カ所、公民館活動として2カ所を訪問した。東与賀では、初めて地域創造の助成で公共ホール音楽活性化事業として3カ所4公演のアウトリーチを実施した。 |
| ⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。 | P7～14 | | 文化会館ではワークショップ3企画、アウトリーチを学校6カ所で行い、東与賀ではワークショップ3企画を実施した。 |
| ⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。 | P7～14 | | 文化会館では、平成元年開館記念事業のオーケストラの公演を当時と同じチケット代で実施した。また、3種類のワークショップで地元のバレエ教室の講師、琵琶と津軽三味線奏者を起用し、創作楽器の制作と演奏を体験させた。東与賀では、地元からの講師を招き短歌教室、唐津の人形浄瑠璃を会場無料で実施した。「佐賀市文化・芸術人材バンク」は、登録アーティスト12組、市民の利用実績はなかった。 |
| 3) 財務に関すること | | | |
| ⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。 | P17、20 | A | 文化会館では、企業からの特別協賛金で京都フィル・渡辺真知子のコンサートやにわか公演を実施した。オフィシャルパートナーは1社増えて11社になった。東与賀では、地域創造の助成を受けてコンサートを実施した。 |
| ⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。 | P10～14 | | 利用料金収入は、2施設とも昨年より若干減っているが、目標を達成している。文化事業収入は、文化会館、東与賀とも事業数を増やし文化事業を拡大させ増加した。 |
| ⑩ 経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。 | P17～19 | | 適切な空調管理などで電気使用量の省エネルギーに努めた。 |
| 前回の委員会「平成30年度の課題」 | | 課題への対応状況 | |
| ①オフィシャルパートナー増加のために入場券を進呈する。 ②レストラン運営の調査研究(イベントが行われてない時でも市民の集まる場所) ③多様な情報の市民への伝達。ストーリーやエピソードを使用する広報。 ④高齢化が進む中で、それらを対象とした視点も必要。 ⑤周辺の道路建物整備に関して早く情報を取り入れ課題解決に取り組んで頂きたい。 | | ①招待券は発行済。他の主催者のコンサートチケットの依頼も受ける。 ②九州内の主なホールを調査した。順調なところは無かった。広報協力しているが人手不足の状態が続いている。随時情報交換している。 ③フェイスブックで自主事業だけでなく、他主催の行事なども掲載している。 ④全世代向けで吉本新喜劇を実施。広報もTV・新聞を多くし、スマホ・PCが使えない方も情報に触れられるよう考えている。 ⑤県・市の会議に出席。導線やシャトルバスなど協議中。 | |
| 平成30年度に高い実績を収めた事項 | | 2020年度に向けた課題 | |
| ・東与賀で、初めてアウトリーチを実施。 ・東与賀で、“大隈重信”を取り上げた「講談」を実施し、ほぼ満席となった。 ・文化会館で、開館30周年記念事業を実施。 ・文化会館で、満席の事業が6公演あった。 | | ・2023年国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀の利用者数、稼働率の目標達成。 ・文化事業入場者数の拡大。 | |

【佐賀市文化振興財団による自己評価の説明】

1) 施設管理に関すること

- ・文化会館の利用者数は 419,067 人で、前年度に比べ約 11,126 人減少したが目標の 410,000 人を達成した。稼働率は 72.36%で、前年度に比べ 4.1 ポイント減少し、目標の 74%を達成できなかった。主な要因としては、これまで会議室、練習室 1,2 を利用していた団体の利用が減少したことが考えられる。
- ・東与賀文化ホールの利用者数は 57,405 人で、前年度に比べ約 7,809 人減少したが目標の 32,000 人を達成した。稼働率は 58.99%で、前年度に比べ 1.38 ポイント減少したが、目標の 52.5%を達成した。
- ・保守点検や修繕等は確実に実施し安全確保に努めた。
- ・情報提供は、特に会館の 30 周年記念事業を中心として、ホームページ、フェイスブック、紙面は会館の情報誌、モテモテさが、ざっしにあなど、月刊のタウン誌に記事広告を載せ、加えて、テレビ、ラジオでの告知も行って、幅広い情報提供を行った。

2) 文化事業に関すること

- ・文化会館の文化事業入場者数は 21,399 人で前年度に比べて 597 人減少したが目標の 15,000 人を達成した。
- ・入場者数の目標達成の主な要因は、計画的な事業の企画、実施、主催事業 16 企画のうち「めざましクラシックス in 佐賀」「立川志の輔独演会」「さだまさし 45 周年記念コンサート」等の 5 企画 6 公演が満席、他に「ジブリの思い出がいっぱい オーケストラによるドリームコンサート」等 2 企画が満席に近い入場者数であったことが考えられる。
- ・文化会館の開館 30 周年記念事業を平成 30 年 11 月 16 日に開催した。平成元年度の開館記念事業と同じサンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の演奏会を当時と同じチケット料金で実施し、入場者数は 1,269 人だった。
- ・東与賀文化ホールでは、初めて伝統芸能に接する機会を提供するために、唐津の人形浄瑠璃保存会の上演と、終演後に来場者の方に人形遣いの説明をしていただく公演を無料で実施した。

3) 財務に関すること

- ・公益財団法人は、原則黒字を出してはいけないが、平成 27 年度、28 年度と 2 年続けて黒字の決算となり、剰余金が発生していたが、平成 30 年度決算で剰余金は解消された。
- ・利用料金収入は、前年度に比べ文化会館で約 226 万 7 千円、東与賀文化ホールで 54 万 2 千円減少したが、目標を達成した。
- ・オフィシャルパートナーは 10 社から 11 社に増えた。
- ・文化会館では、自主事業 1 公演について、協賛社を獲得して実施した。
- ・東与賀文化ホールでは、(一財)地域創造の助成を受けて、本公演に加えて、アウトリーチ公演を東与賀にある幼稚園、小学校、福祉施設 3 箇所で 4 公演実施した。
- ・空調等の温度管理、運転管理をして、電気の使用量を減らし、経費節減に努めた。

(2) 質疑応答(概要)

- 委員 集客が難しい中、満席の事業が6公演というのはいい。事業内容が良かったのか。
- 財団 吉本新喜劇は、佐賀公演が久しぶりで、昨今、お笑い文化に対するニーズが高いことがあった。さだまさしさんは、固定のお客さんがおられる。布袋さんは、佐賀で初公演というのも大きかった。立川志の輔さんは、チケット入手が難しいので、福岡でチケットが取れなかった方も来られたと聞いている。
- 委員 東与賀文化ホールで行われた講談も良かったようだ。
- 財団 神田紅さんは福岡出身で、早稲田大学に入学されている。佐賀を題材にした催物をしたこと、佐賀のお弟子さんが出演されて、その方がチケット販売をされたことで満席になった。講談は、佐賀では落語に比べて接する機会が少ない。
- 委員 アウトリーチは定着した活動になっていると思う。アウトリーチ後、学校や施設側の評価はどのように戻ってくるか。例えば、児童生徒が感想文を書いて出されるか。
- 財団 小学校からは、児童の感想文をいただくことがある。盲学校からは名前入りで生徒の感想文をいただいた。
- 委員 その感想文を読まれた後に、次のアウトリーチに生かす点をピックアップされているか。
- 財団 平成29年度に、ピアノのワークショップをしたときに、ピアノを弾くだけでなく、触って振動を体感してもらったら、それが楽しかった、面白かったという感想が寄せられた。それをもとに盲学校の先生に、生徒にピアノに触ってもらったら振動を体感できるとお話したところ、盲学校でピアノのアウトリーチを開催することになった。
- 委員 アンケートの回収率や結果はどうか。
- 財団 満席の公演、ポピュラーの公演はアンケートがなかなか集まらない。クラシックの公演は、公演の評価、次に聴きたいジャンルやアーティスト名を書いていただけるので、次の公演の、演者の選定や、プログラム構成の参考にしている。
- 委員 財務に関することで、評価資料ⅡP29の貸借対照表を見ると、平成30年度は全体で2,000万円を超える赤字なので、一般正味財産がマイナスになっている。この財団ができるときに佐賀市から3,000万円出損してもらって正味財産を構成してスタートしたと思うが、その正味財産に食い込んでいく。どの公益法人も悩んでいるが、公益目的事業の収支相償を満たしつつ、一般正味財産の確保についてどのように改善するつもりか。
- 財団 佐賀市文化振興財団の場合は、会計上の区分で、公益、収益、法人の3つの事業がある。収益事業は、公益法人のため佐賀県の認定がある事業しか行えない。収益事業は黒字なので、公益事業の収支を合わせることで一般正味財産を改善していきたい。
- 委員 今1,046万円のマイナスなので大変だと思う。
- 財団 平成27、28年度に公益事業が約2,400万円の黒字になり、佐賀県からそれは公益事業で使いなさいという指導あった。3年間かかったが、平成30年度に30周年記念事業という大型事業を組み込んで剰余金は全て解消された。平成31年度の決算から、少しずつご指摘の基本財産の額に回復するように、なかなか難しいが少しずつコントロールして戻したいと考えている。

(3) 採点 (4) 集計 (5) 総合評価

- 委員 スタッフが限られていて大変では。
- 委員 外回りも人が必要になるのでなかなか難しいのでは。
- 財団 外回りは物理的に人がいるので難しい。
- 委員 職員の超過勤務の時間数はどうか。
- 財団 今年7年目の市民芸術祭が始まった直後は業務過多になった。2年続いたが、その後、省けるところは省いて工夫し、少しずつ超過勤務は減っている。今年、新規職員を、事業課に配属した。事業課は突発的な業務が重なって時間が延びることが多かったが、少しずつ解消されつつある。法令が改正され4月1日から上限規制が明確に打ち出されているので、職員には法令改正や上限規制を教えた上で、一人で抱え込まずにみんな協力してやるようにと伝えている。4から6月は前年に比べて超過勤務が減っている印象がある。
- 財団 超過勤務時間が年間で360時間、月30時間を超えないように指示していて、今のところ守ってくれている。
- 委員 職場環境で言うと、施設の中で働くことが多いので、直接利用者からありがたいの声かけや、公演を見終わって気持ちよく帰っていく姿を見る機会が少ない職員もいるかもしれない。自分の仕事がどのように人の喜びに繋がっているかを感じ取れる職場はいいと思う。別冊資料5ページに、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の公演を鑑賞した方の佐賀新聞への投稿があったが、このような記事を職場に掲示して、自分達の仕事がどのようにお客様の心に響いているかをいつでも見られるようなコーナーがあれば、気持ちが良くなると思う。
- 財団 主催事業をした時にお礼を言われるが、ほめ言葉をいただいたときは、その場で会話をしている。臨時職員が一生懸命頑張っているが、そういう人たちがいるから財団はうまくいっていると思う。
- 委員 フェイスブックの記事投稿がだんだん洗練されてきた、こなれてきた感が出ているが、同じ方が担当しているか。
- 財団 元々の担当2人と、事業課に配属された新人職員3人で記事を投稿している。新人職員は記事投稿にたけている。くだけた形でイラストや絵文字を入れて、なるべくやさしい感じ、時節柄のことも入れてやっている。月に40回ぐらい更新しており、2日に1回ぐらいのペースでフェイスブックに投稿している。
- 委員 これまでは遠慮がちな投稿が多かったが、今はちょっと活気のある投稿だと思う。
- 委員 宿泊施設などは人材難で外国人の技能実習生を受け入れている。文化振興財団では外国人の雇用をしているか。
- 財団 施設の清掃を委託している業者は外国人の方を雇用しており、文化会館の清掃をしてもらっている。レストランが人材不足なので、レストランにもそういう働きかけはしてみたい。
- 委員 文化事業を決める際の悩みはないか。これをやりたいけどなかなかできない。ギャラの問題等あると思うが。
- 財団 オペラを事業でやれないかと思うが、お金がかかる。他市で赤字を出した失敗事例がある。佐賀でできない事業に取り組みたいと思う反面、収益性、入場者数も考えないといけない。人は入らないけれども機会は提供したい、そのあたりが悩み。
- 委員 自主事業が6つ満席だったが、その公演内容は自分達で計画・企画して交渉したのか。

または企画されたものから選んだか。

財団 毎年秋に翌年度の企画について、クラシック、娯楽的なものなど、ジャンルごとに何本しようと決める。経費がある程度決まるので、ジャンル、経費、入場料等から自分達で考えるものと、外から持ち込まれるケースを共催でやるなどしている。

財団 特にポピュラーのジャンルは、年間の本数と予算計画はするが、微妙なところがある。ある程度待っていると時期がちょうどよく空いて、経費面でのメリットが得られることもある。早めに言うと経費面でなかなか厳しい部分もある。声かけはするが、時期の選定は先方から連絡をもらうこともある。ジャンルの的には、去年のサンクトペテルブルグのような海外ものは、招聘時期、ギャラも企画物として公表されているので、前もって計画する。ポピュラーは人気のある方とか、アンケートで名前が上がっている方の要望は出すが、スケジュールを早めに決めなかったり、調整はしている。

委員 文化芸術人材バンクに登録されている 12 名のアーティストはどんな方か。

財団 団体が 2 つで、佐賀ユーモア協会のにわか部会と劇団とんこパピィという牛津で大道芸をされている方で、高木瀬公民館で定期的に演劇ワークショップをされている団体。クラシック関係は、例えば、ソプラノ、ピアノ、マリンバ、県の音楽協会に在籍されている方などに登録していただいている。和楽器は津軽三味線の高橋浩寿さん、薩摩琵琶の北原香菜子さんが登録されている。

| 評価項目 | | 満点 | 得点計 | 得点率 | 判定 |
|---|--|--|--|------|----|
| 1) 施設管理に関すること | | 180 | 152 | 84.4 | A |
| ① | 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。 | 60 | 52 | 86.7 | - |
| ② | 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。 | 60 | 50 | 83.3 | - |
| ③ | ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。 | 60 | 50 | 83.3 | - |
| 委員コメント | | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能維持に努められている。 ・29年度は市内3施設が年度後半から休館した影響もあり稼働率が高かった。30年度の稼働率は29年度と比べて比較的維持している。 ・満席6公演は素晴らしい。会議室利用などもPRしながら稼働率増を期待する。 ・Facebookでの記事投稿は見やすくなってきた。 | | | |
| 2) 文化事業に関すること | | 240 | 218 | 90.8 | A |
| ④ | 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。 | 60 | 58 | 96.7 | - |
| ⑤ | 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。 | 60 | 54 | 90 | - |
| ⑥ | 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。 | 60 | 56 | 93.3 | - |
| ⑦ | 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。 | 60 | 50 | 83.3 | - |
| 委員コメント | | <ul style="list-style-type: none"> ・満席公演があること自体、活気につながる。 ・満席6公演、講談、独演会など日本文化に触れる機会は良いと思う。 ・東与賀文化ホールでは地域の団体等への支援をよくできている。 ・東与賀文化ホールで子どもたち対象のアウトリーチに初めて取り組まれたことを評価する。 ・人材バンクは文化連盟との協働が必要ではないか。 ・「佐賀にわか」は佐賀らしい文化芸術。是非継続的に何かしらの形で続けていってください。 | | | |
| 3) 財務に関すること | | 180 | 148 | 82.2 | A |
| ⑧ | 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。 | 60 | 50 | 83.3 | - |
| ⑨ | 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。 | 60 | 48 | 80 | - |
| ⑩ | 経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。 | 60 | 50 | 83.3 | - |
| 委員コメント | | <ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルパートナーの増、特別協賛金を得ることにつき良い成果を出されている。 ・公演（人気のありそうな）のセッティング。 ・施設維持に費用がかかると思う。コストは増えると思うので収益性UPを目指してください。 | | | |
| ◆総合 | | 600 | 518 | 86.3 | A |
| ◆総合評価 | | | | | |
| 高い実績を収めた事項 | | | 令和元年度の課題 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率の確保 ・ワークショップ・アウトリーチの実施 ・幅広い年代層への対応 ・自主事業の選択が良かった。講談は意外と市民の関心があったのかと再認識した。 ・東与賀での講談の成功のように、これまで実施していなかったジャンルに地域性を取り入れながら企画したことは高く評価できる。 ・東与賀文化ホールの利用活性化が良かった。 ・満席6公演 ・前回会議であがったFacebookの情報アップ、SNS利用は、よく更新されている。エピソードなども大変ユニークなものもあり、継続していただきたい。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・今後ともアウトリーチ、ワークショップ等により市民のニーズを収集し自主事業等に反映したら良いと思う。 ・広報と財務はそれぞれ別分野として捉えず、良い広報が良い収益を上げるとの視点から、広報のあり方を見ていくことが、これまで以上に求められているように思う。 ・東与賀文化ホールにおける高校生の演劇は、今後も継続的に実施して、若い人のホール利用を進めてほしい。 ・文化会館駐車場の数の確保。 ・レストランの運営改善、ブランディング。 | | |